

週刊

小竹ひろ子

事務所ニュース

くらし子育て防災

3つのあんしん

届け
ます



連絡先

小竹ひろ子事務所

文京区白山3-2-5

電話 3815-9301

FAX 3815-7663

首都直下型巨大地震にどう備えるか



熱心に報告を聴く参加者

シンポジウム 開催



報告する末延渥史氏

小竹ひろ子事務所と日本共産党文京地区委員会は二十三日「巨大地震にどう備えるか」をテーマにシンポジウムを開催。この企画にむけて、小竹ひろ子前都議は区内の百五十をこえる町会に案内を届け、消防団（二十二団）、建設会社（十社）を訪問しお話しをしました。

防災研究家の末延渥史氏が「検証―東京都地域防災計画 東京都の被害想定と防災計画のゆがみと欠陥」を講演、板倉美千代区議会議員は「文京区地域防災



あいさつする小竹前都議

計画（平成二四年度修正）」の概要と問題点について報告しました。

参加者から「文京区では、防火地域（不燃化地域）は耐震化助成の対象になっていない。道路をへだてて助成対象とされる地域なのに、自分の家の地域には適用されないのは納得できない」の発言に、末延氏は「静岡県では、すべての地域が、県の耐震化助成の対象になっている」と答え、命を守るために、万全の支援体制が求められていることを強調しました。

事前に区内の急傾斜地危険箇所（崖地、人工斜面三六自然斜面十二）を調査した小竹ひろ子前都議は、「早急に、区は危険箇所のすべてを耐震調査することが求められている」、「東京都、文京区は率先して震災被害を予防する立場に立ち、『公助』を軸にした防災計画を抜本的に強化することが必要だ」と訴えました。

ひろ子かけ歩き活動日誌



大震災前は子どもたちの元気な声が聞こえた幼稚園跡地、ここにもバラを植える予定です

「あなたのバラを被災地で咲かせませんか？ 私、小竹も4月7日に休耕地での苗植えに行きます」

東日本大震災から2年。昨年夏は、のりの養殖再開でがんばっている漁協の支援、仮設住宅訪問を行ってきました。今だに津波被害の地域は荒れ果てています。

友人から、被災した方々への励ましも含めて、石巻市内で休耕地・公園・堤防に「バラを咲かす」取り組みが進められていることを知りました。ご賛同いただいた方（1口三千元）の名札（革製）を、震災で親をなくした子どもたちに苗木につけてもらい、花が咲いた際には、花びらを皆さんにお送りする企画（仮称：ばらプロジェクト）だそうです。

第1回として、ハマナス（バラ科）の苗木200本を休耕地に植えてきます。東松島市や女川町からも植えてほしいと希望がよせられているそうです。

小竹ひろ子前都議は、二六日、金子てるよし区議とともに「白ガス管」（※東京ガス管内で現在三二〇



「危険な白ガス管取替えに国都区の助成を 木造住宅密集地域にも支援事業適用を」（小竹ひろ子）

万本埋設されている「亜鉛メッキ鋼管」は、土壌内で化学腐食を起こし損壊することが判明し、新管との交換が必要の安全対策について経済産業省の担当者から聞き取りを行いました。その中で東京ガスは、昨年八月から周知はがき十数万枚をだしていることが明らかになりました。

小竹前都議は、「はがきには『ガス管は』あなたの個人資産です」とあるが取替え費用の助成が必要ではないか。また、国の『ガス導管劣化検査等支援事業』の対象は不特定多数が集まる公共施設だが、事故が起きれば、多数の人々に被害が及ぶ『木造住宅密集地域』も『公共施設』として扱うべきではないかと提案しました。震災予防のためにも「白ガス管」の交換が急がれます。（『しんぶん赤旗』三月二十九日掲載）